

# Asia Indicators

発表日: 2026年3月27日(金)

台湾・輸出受注は引き続き AI 需要がけん引 (Asia Weekly(3/20~3/27))

～輸出受注の堅調さは生産を下支えする展開が続いている～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL:050-5474-7495)

## ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
3/20(金)	( <a href="#">ニュージーランド</a> ) 2月輸出(億 NZドル)	66.3	--	61.0
	2月輸入(億 NZドル)	68.9	--	67.3
	( <a href="#">台湾</a> ) 2月輸出受注(前年比)	+23.8%	+25.5%	+60.1%
3/23(月)	( <a href="#">シンガポール</a> ) 2月消費者物価(前年比)	+1.2%	+1.3%	+1.4%
3/24(火)	( <a href="#">タイ</a> ) 2月輸出(前年比)	+9.9%	+17.0%	+24.4%
	2月輸入(前年比)	+31.8%	+25.0%	+29.4%
	( <a href="#">台湾</a> ) 2月鉱工業生産(前年比)	+17.83%	+15.00%	+27.88%
3/25(水)	(オーストラリア) 2月消費者物価(前年比)	+3.7%	+3.8%	+3.8%
3/26(木)	( <a href="#">シンガポール</a> ) 2月鉱工業生産(前年比)	▲0.1%	+13.6%	+12.9%
	( <a href="#">台湾</a> ) 2月失業率(季調済)	3.33%	--	3.36%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

## [台湾]～世界的な AI 関連需要の旺盛さがけん引役となり、引き続き輸出受注は拡大基調で推移している～

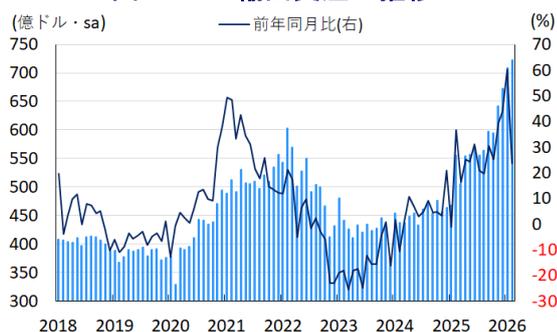
20日に発表された2月の輸出受注額は前年同月比+23.8%となり、前月(同+60.1%)から伸びが鈍化している。前月比も+1.87%と前月(同+5.41%)からペースこそ鈍化するも4ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど、底堅い動きが続いている。今年は春節(旧正月)連休の時期が前年に比べて大きく後ずれしている影響を考慮する必要がある。国・地域別では、中国本土向けが大きく下振れしており、欧州向けも同様に弱含む動きをみせている。その一方、ASEANなどアジア新興国向けや日本向けに底堅い動きがみられ、米国向けの旺盛な動きが受注全体を押し上げている。財別でも、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の堅調さが下支え役となっており、世界的なAI(人工知能)関連需要の旺盛な動きが受注動向をけん引する展開が続いている。

24日に発表された2月の鉱工業生産は前年同月比+17.83%となり、前月(同+27.88%)から伸びが鈍化した。ただし、前月比は+3.47%と前月(同▲0.58%)から2ヶ月ぶりの拡大に転じるとともに、中期的な基調も拡大傾向で推移し、堅調な動きが続いている。財別では、自動車や自動車部品関連のほか、電気機械関連、金属関連、プラスチック関連、化学製品関連など幅広い分野で生産が下振れする動きがみられる。その一方、主力の輸出財である半導体など電子部品関連では引き続き旺盛な動きが続いており、鉱工業生産全体をけん引する展開が続いている。

26日に発表された2月の失業率(季調済)は3.33%となり、前月(3.36%)から0.03pt改善してい

る。失業者数は前月比▲0.4万人と前月（同+0.1万人）から4ヶ月ぶりの減少に転じるとともに、中期的な基調も減少傾向に転じている。さらに、足元の失業者数減少の動きは、非自発的失業を中心とする減少がけん引役となっている。一方の雇用者数は前月比+0.6万人と前月（同+0.5万人）から3ヶ月連続で拡大しており、サービス業や公益関連で雇用拡大の動きが続いているほか、調整が続いた建設業で底打ちする動きがみられる。また、雇用環境の底堅さを受けて、労働力人口は前月比+0.1万人とペースは鈍化するも、前月（同+0.7万人）から3ヶ月連続で拡大するなど労働市場への参入意欲は改善する動きがみられる。

図1 TW 輸出受注の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 TW 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 TW 雇用環境の推移



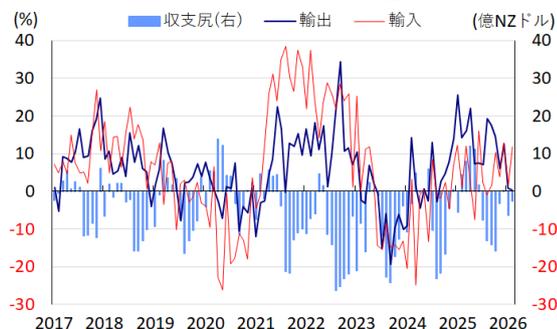
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### 【ニュージーランド】～主力の食肉関連の輸入に下押し圧力がかかる一方、輸入は総じて底堅い動きをみせる～

20日に発表された2月の輸出額は前年同月比+0.4%となり、前月（同+0.7%）から伸びが鈍化している。前月比は▲1.5%と前月（同▲3.4%）から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの様相を強めている。財別では、主力の輸出財である乳製品関連、材木・木製品関連のほか、機械製品、果物、水産物などの輸出に堅調な動きがみられるものの、食肉関連の輸出が大きく下振れしたことが輸出全体の足を引っ張っている。国・地域別では、米国向けや欧州向けなどに堅調さがうかがえるほか、隣国オーストラリア向けも底堅い動きをみせる一方、最大の輸出相手である中国向けが下振れしたほか、ASEANなどアジア新興国向けや日本向けが鈍化したことが輸出全体を押し下げる要因となっている。一方の輸入額は前年同月比+11.8%となり、前月（同+1.8%）から伸びが加速している。前月比も+5.8%と前月（同▲1.5%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど、月次の振れは大きいものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど輸出と対照的に持ち直しの動きが続いている。

財別では、原油・石油製品関連のほか、機械製品関連の輸入が下振れする一方、電気機械関連や日用品関連など幅広い分野で輸入が拡大している。結果、貿易収支は▲2.57億NZドルと前月（▲6.27億NZドル）から赤字幅が縮小している。

図4 NZ 貿易動向の推移

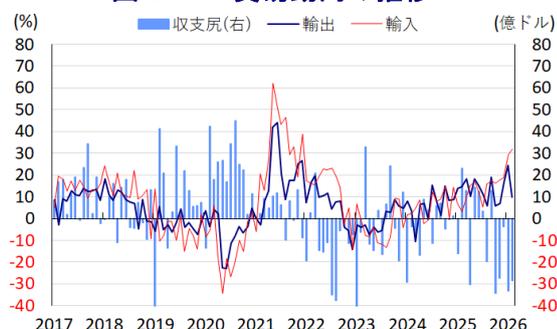


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [タイ]～春節連休の影響で中国やASEAN 向け輸出は鈍化も、米国やEU、日本向け輸出は堅調な推移が続く～

24日に発表された2月の輸出額は前年同月比+9.9%となり、前月（同+24.4%）から伸びが鈍化している。当研究所が試算した前月比も3ヶ月ぶりの下落に転じており、持ち直しの動きに一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。なお、2026年は春節（旧正月）連休の時期が2025年に比べて大幅に後ずれするとともに、連休の日程も増えていることに留意する必要がある。財別では、農産品関連の輸出は堅調な動きをみせるとともに、主力の輸出財である自動車の輸出に底堅い動きがみられる一方、電気機械関連や素材関連の輸出が頭打ちの動きをみせるとともに、金の輸出が大きく下振れしていることも輸出全体の足かせとなっている。国・地域別では、米国向けやEU向け、日本向けなどに底堅い動きがみられるものの、最大の輸出相手である中国向けのほか、ASEAN諸国向けの鈍化が輸出の重しとなっている。一方の輸入額は前年同月比+31.8%となり、前月（同+29.4%）から伸びが加速している。前月比は7ヶ月連続で拡大していると試算されるなど、底入れの動きが続いている。財別では、原油をはじめとする燃料関連のほか、兵器関連の輸入が大きく下振れするとともに、消費財関連の輸入も力強さを欠く一方、輸出の堅調さを反映して資本財関連や中間財関連の輸入が底堅く推移していることが下支え役となっている。結果、貿易収支は▲28.34億ドルと前月（▲33.03億ドル）から赤字幅が縮小している。

図5 TH 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

## [シンガポール]~2月の鉱工業生産は輸出財関連を中心に幅広い分野で下振れする動きが確認される～

23日に発表された2月の消費者物価は前年同月比+1.2%となり、前月（同+1.4%）から伸びが鈍化している。ただし、前月比は+0.58%と前月（同▲0.51%）から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、生鮮品をはじめとする食料品価格が上昇するなど、生活必需品を中心に物価上昇圧力が強まっていることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.4%と前月（同+1.0%）から加速しており、2024年12月以来の高い伸びとなっている。前月比も+0.46%と前月（同▲0.34%）から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、エネルギー価格が落ち着いた動きをみせるなかで輸送コストに下押し圧力がかかっている。さらに、SGドルの名目実効為替レート（NEER）の上昇により輸入物価に下押し圧力がかかり、幅広く財価格が下振れしている。その一方、サービス物価が上振れするなど対照的な動きがみられる。

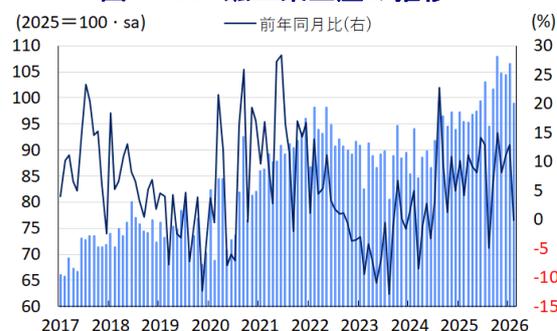
26日に発表された2月の鉱工業生産は前年同月比▲0.1%となり、前月（同+12.9%）から6ヶ月ぶりに前年割れに転じている。前月比も▲7.15%と前月（同+1.99%）から2ヶ月ぶりの減少に転じるとともに、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。同国では、バイオ・医薬品関連の生産が月ごとに上下に大きく振れるとともに、生産全体の動向を左右する傾向がある。当月のバイオ・医薬品関連の生産は、前月比▲1.23%と前月（同+18.43%）から2ヶ月ぶりの減少に転じている。なお、バイオ・医薬品関連を除いたベースでも前月比▲9.40%と前月（同+7.00%）から2ヶ月ぶりの減少に転じており、食品など軽工業分野を中心に生産拡大の動きが確認されている。その一方、主力の輸出財である半導体など電子部品のほか、機械製品など輸出財に関連する幅広い分野で生産が下振れしていることが生産全体の足を引っ張っている。

図6 SG インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図7 SG 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。